

V B M 小気管切開チューブ

再使用禁止

【警告】
〈使用方法〉
 1) 手技の最中にニードル先端によって気管内組織を損傷する危険性があることを常に意識して手技を行うこと〔穿刺角度や患者の体形等によってはストッパ位置までの穿刺であっても、ニードル先端が気管後壁に到達する場合があるため〕。
 2) 気管切開術後においては、皮膚から気管へのルートが確立していないため、カニューレの再挿管が困難となる場合があるので注意すること。なお、詳細は【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉の2)、3)を参照のこと。
 3) 一般的な方法又は胸部の動きによって換気の状態を定期的に確認すること。呼気に異常が認められた場合は、換気回数を減らすこと〔肺への気圧外傷の危険性を避けるため〕。

【禁忌・禁止】
再使用禁止
〈併用医療機器〉
 1) 本品をノーマンエルボー・タイプ（コネクタ内部のガス供給用内筒が患者方向に突出した形状）のコネクタに接続しないこと〔本品を閉塞させ、肺の過膨張や換気不能を発生させるおそれがあるため〕。なお、詳細は【使用上の注意】の〈相互作用（他の医薬品・医療機器等との併用に関すること）〉を参照のこと。

【形状・構造及び原理等】

* 〈形状・構造〉

30-04-004-1 クイックトラック 成人用 内径 4.0mm
 30-04-002-1 クイックトラック 小児用 内径 2.0mm

〈構成品〉
 ①気管カニューレ
 ②ニードル
 ③ストッパ
 ④シリンジ
 ⑤ネックテープ
 ⑥カテーテルマウント

品番	サイズ（内径）	体重 ^a
30-04-004-1	4.0mm	成人 35kg以上
30-04-002-1	2.0mm	小児 10～40kg

^a. サイズ選択の目安です。患者の解剖学的体型等も考慮に入れて選択してください。

本品は挿管が不可能又は、安全、迅速に気管切開できない場合、上気道が閉塞していると、窒息の危険があるため、緊急気道確保のために輪状甲状膜穿刺を行うためのキットです。

〈原材料〉

	名 称	原 材 料
①	気管カニューレ	ABS樹脂
②	ニードル	ステンレス鋼

〈滅菌方法〉

エチレンオキサイドガス滅菌

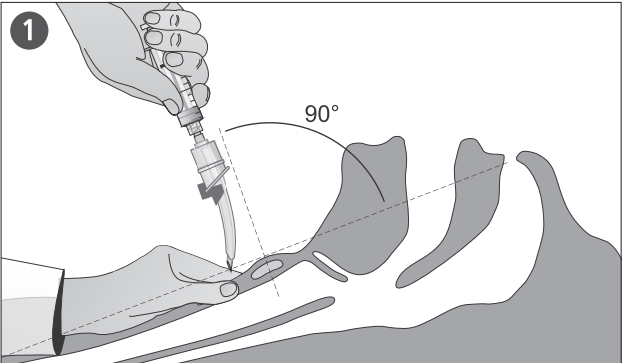
【使用目的又は効果】

〈使用目的〉

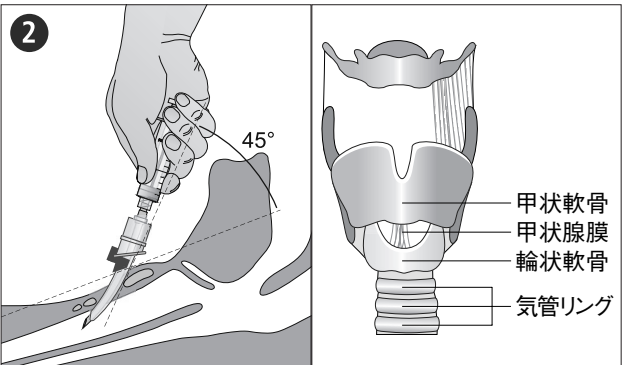
緊急時の救急蘇生を目的とし、首の前面から気管内部へ通じる気道を確保するために使用する。

** 【使用方法等】

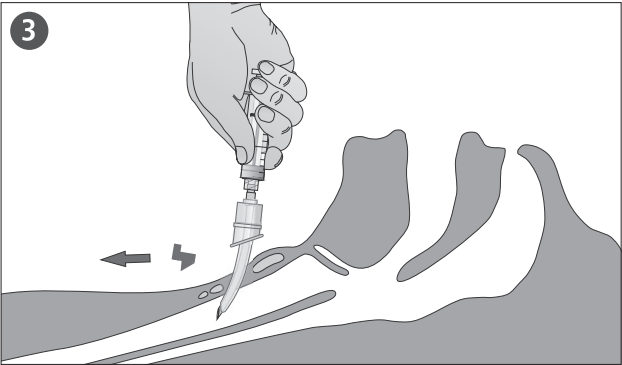
- 患者の頸部を伸展させます。
輪状軟骨と甲状軟骨の凹部を触診して輪状甲状間膜の位置を確認します。人差し指と親指で穿刺目的部位をしっかりと保持します。シリンジとカニューレをセットした状態で、ニードルを輪状甲状膜に垂直に穿刺します（ニードル先端の形状は鋭利且つ円錐形であるため、スカルペル等による切開は必要ありません。気管は、ニードルの穿刺と、それに続く気管カニューレの導入による拡張操作によって形成されるため、出血のリスクを軽減できます）。



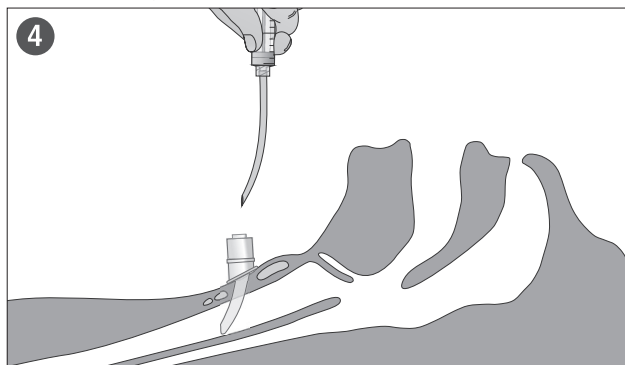
- 45°に傾けストッパが頸部表面に接する位置までニードルを更に気管内に進めます。ストッパは気管の深くまでニードルを穿刺してしまうことを防ぐ目的でセットされているので、ニードルによる気管後壁穿孔のリスクを軽減できます。シリンジに陰圧をかけ気管内の空気を吸引できることを確認し、ニードルが気管内に正しく到達していることを確認します（図④参照）。



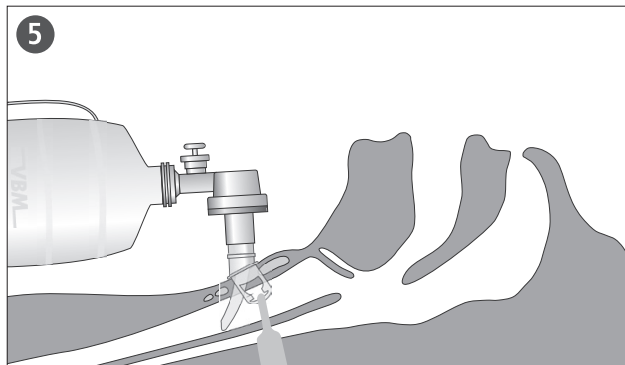
- 気管カニューレからストッパを外します。



4. 気管カニューレのフランジ（頸部固定板）が頸部表面にくるまでニードルに沿って気管カニューレを気管内に進めます（ストッパを取り外した後のニードルは、気管カニューレを気管に導入するガイディングの役割を果たします。ニードルをそれ以上深く進めないでください）。シリンジとニードルをいっしょに引き抜きます。



5. ネックテープで気管カニューレを固定します（ネックテープの気管カニューレのフランジに固定されていない方の端を患者の首の後を通して他方のフランジ端にまわします。次、フランジの穴にネックテープを通してベルクロテープで固定します）。必要に応じてカテーテルマウント（付属品）を気管カニューレの15mmコネクタに接続して患者を換気します。



〈使用方法等に関連する使用上の注意〉

- 1) 気管内にカニューレが到達したことを確認する前に、ニードルを引き抜かないこと。肥満等で術野付近の皮下組織が厚くストッパをつけた状態ではニードル先端が気管内に到達できず、シリンジ内に空気を吸引できない場合は、ストッパを取り外して空気を吸引できるまで、ニードルとカニューレを慎重に気管へ押し進めること。

【使用上の注意】

〈重要な基本的注意〉

- 1) 開封後、直ちに使用すること。使用しなかった場合は、再滅菌せずに廃棄すること。
- 2) 気管切開術後は、カニューレが抜けないようしっかりと固定できるような処置を講じること。カニューレが抜け再挿管する場合、皮下へ異所留置するおそれがあるので、再挿管後に換気状態の確認を十分に行うこと。又、再挿管時等、気道が確保できない場合に備えて、緊急気管挿管等の準備を整えておくこと。
- 3) 本品が適切な位置に挿管されていることを確認すること。ネックテープ又はチューブホルダを使用して本品を固定している場合は、挿管直後に限らず適時、本品とネックテープ又はチューブホルダが緩まないよう適切に固定されていることを注意・確認すること〔ネックテープやチューブホルダがほどける、又は緩むことにより、予期せぬ抜管のおそれがあるため〕。
- 4) 定期的に気管カニューレ内腔が分泌物によって閉塞していないかチェックし、必要に応じて新品と交換すること。

- ※5) 呼吸回路接続時及び接続後は、本品が確実に接続されていることを確認すること。

〈相互作用（他の医薬品・医療機器等との併用に関すること）〉

1. 併用禁忌（併用しないこと）

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ノーマンエルボー・タイプ（コネクタ内部のガス供給用内筒が患者方向に突出した形状）のコネクタを有する医療機器	本品と接続しないこと。	本品を閉塞させ、肺の過膨張や換気不能を発生させるおそれがある。

〈不具合・有害事象〉

本品の使用に際して、以下のような不具合・有害事象の可能性がある。

1) その他の不具合

- ・カニューレの破損、リーク
- ・カニューレの閉塞、狭窄、潰れ、キンク
- ・シリンジ、ストッパの破損
- ・カテーテルマウントの外れ、破損

2) その他の有害事象

本品の使用に伴い、以下のような有害事象が生じる可能性があるため、患者の状態を十分に観察し、異常のおそれが生じた場合は、直ちに適切な措置を施すこと。なお、以下は代表的な有害事象であり、すべてを列記するものではない。専門書・研究発表等も参考にすること。

- ・肉芽形成、出血、肺塞栓症、感染、無気肺
- ・皮下気腫、縦隔気腫、気胸、気管膜様部瘻孔、気管壁穿孔、肺穿孔、食道穿孔
- ・気管狭窄、気道閉塞、低酸素血症、換気不全、心肺停止
- ・喉頭狭窄、嘔声
- ・誤挿入（皮下、食道、甲状舌骨間等）

【保管方法及び有効期間等】

※※〈保管方法〉

本品を保管するときは次の事項に注意すること。

- ・水濡れ、高温多湿及び直射日光を避けて保管すること。

- ※〈保管時（運搬時も含む）は、元のパッケージに入れること。

（保管条件）

温度：5℃～40℃

湿度：30%～75%RH（ただし結露なきこと）

〈有効期間〉

- ・本品の包装に記載されている「有効期間」までに使用すること〔自己認証（当社データ）による〕。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

※※〈製造販売業者〉

smiths medical

スミスメディカル・ジャパン株式会社

<https://www.smiths-medical.com/ja-jp>

※〈問合せ先〉

フリーダイヤル 0120-582-855

〈製造業者〉

VBM メディツインテヒニーク GmbH

VBM Medizintechnik GmbH

〈国名〉

ドイツ